報道活動＆ドキュメンタリー番組の

#009 動画配信最前線

ReHacQ-リハック- 編

株式会社tonari 代表取締役 CEO 高橋弘樹さん

YouTube「ReHacQ -リハック-チャンネル」 元テレビマンが、旬なものから教養まで何でも並べ、楽しく伝える

社会人が教養を学べる総合ビジネス&カルチャーの場

――YouTubeに「ReHacQ -リハック-」を立ち上げた理由をお聞かせください。

高橋■「日経テレ東大学」という前身のチャンネルがあり、僕は後継を連続的にやりたいと思っていました。ただ、社内にいると他の仕事をしないといけないこともあり、テレビ東京を退社して「ReHacQ-リハック-」をスタートさせました。

コンセプトは「本格的な経済を楽しく学ぶ。ビジネスのスキルをしれっと学ぶ。社会や人生をもう一度違う角度から見つめ直してみる」。社会に出ると忙しくて勉強する時間がないビジネスマンが、楽しかったり、面白がったりするような形で経済を学べる場所を提供したいと考えました。経済だけでなく政治なども含めて、社会人にとっての教養を学べる総合ビジネス＆カルチャーの場にしたいと思っています。

――主にどのようなネタを取り上げているのですか。

高橋■最近でいうと、トランプ関税、世界同時株安問題など、人々が喫緊に必要としていることを重点的に扱っています。それ以外にも、まだ発見されていない社会の課題や、文学、哲学、物理などの学問や教養のジャンルも深掘りしていきます。旬なものから教養まで何でも並べ、それを楽しく伝える。楽しいというのは、やはり好奇心を持ってもらうには必要なことだと思います。

――いろいろなジャンルを扱い、バラエティ感を出そうとしているのですね。

高橋■YouTubeの戦略上でいうと、経済だけにするとか、政治だけにするとか、一つのジャンルに絞ったほうがチャンネル登録者数は増えると思います。けど、そうしないところをポリシーにして、一つの“メディア”を目指すと、僕はずっと言い続けています。

――ジャーナリスティックな話題も多いように思います。

高橋■ジャーナリズムじゃないと常々言っています。僕は権力監視の能力はないですし、不正を追及するのもそんなに興味がなく、どちらかというとエンタメ寄りの人間だと思っています。制度的な不具合とか不正の追及とかより、不正をやった人の動機に迫るほうに興味があります。

――コンテンツとしては対談ものが多いですね。

高橋■メディアの使われ方には違いがあります。夜じっくりと見るにはNetflixとか、朝に流し見するにはテレビがいいとか。YouTubeの使われ方としては、ラジオのように音だけを聞く人も多いと思います。そのような接し方をしている人を対象にすると、対談が一番適していると考えました。耳だけで楽しめるというのは、結構大きな要素だと思います。

テレビ局のエース級をネットだけに出すのも面白い

――今後どのような戦略を考えていますか。

高橋■数字的には爆死することもあると思いますが、若い世代の人が話を聞きたくなる話題を追い求めていきたいですね。先日も大学時代に起業した人との対談を配信しました。もっと若くて、高校生みたいな人の対談を聞きたいという声もあります。ネタでいえば物理の話題とか。若い世代はテレビを見ない人が多いので、そんな人たちに楽しんでもらいたいという思いがすごく強いですね。

――高橋さんは放送局出身ですが、テレビ局がYouTubeを活用するとき、何かヒントになるようなことがあれば教えてください。

高橋■リソースを地上波に割いたほうが経営的にはどうしても効率がいいので、会社判断としては難しいとは思いますが、テレビのいわゆるエース級の人というか、報道などで第一線で活躍されている方とか、エンタメの分野で活躍している人などを、一度テレビと切り離してネットの世界でやっていただくというのは、結構面白いと思います。

オススメコンテンツ

【石破総理が緊急出演】楽しい日本とは？103万の壁は？SNS規制は？夫婦別姓は？総理が本音激白

石破茂総理が緊急出演。「楽しい日本」「令和の日本列島改造」に向けた地方創生への覚悟や選択的夫婦別姓、大手メディアのあり方など話題の問題について、総理に直接聞く。

from YouTube

多様なジャンルを扱いながらも、確立した番組フォーマットで見やすくまとめられている点が、視聴習慣に繋がっていると感じられます。また、長い尺を使って政治家の方々のさまざまな側面を引き出すことで、視聴者の選挙への関心を高めて来られたのも特筆すべきポイントです。

Supported by Google（YouTube）